



手術室で求められる
多様な動きに対応し、
自在に向きを変える
血管撮影装置のアーム!

カテーテル治療と外科手術が一緒にできる ハイブリッド手術室

ハイブリッド手術室が2016年10月より稼働しています。いったい何がハイブリッドか？

通常は検査室にある血管撮影装置が手術室に備えられています。つまり、これまで個別に行っていた外科手術と血管内カテーテル治療が一緒にできるようになったというのが最大の特徴です。

患者さんにとっては、例えば人工弁を取り付ける手術などが開胸せずに行えるため、手術時間の短縮、そして入院期間の短縮となり、心身の負担軽減につながります。

特に、体力低下などの理由でこれまで外科手術が難しかった高齢の患者さんやハイリスクの患者さんも、手術を受けられるようになり、治療の選択肢が増えるという大きなメリットがあります。

血管撮影装置には、細い血管でも正確にカテーテルを通す場所を確認できるよう、高画質・高精細で拡大される大型モニター(56インチ)が設置されています。

当院ではこれからも患者さんを第一に考え、安心安全な医療を提供していきます。

新年のごあいさつ



病院長
やまもと しゅういち
山本 修一

信頼される病院を目指して、さらなる取り組みを進めてまいります

千葉大学病院には、各地の医療機関からの紹介で、毎日2000人以上の患者さんが受診されます。当院では、新しい治療法などの研究についても積極的に取り組んでおりますので、難病や希少疾患の治療に遠くから来られる患者さんも少なくありません。

「そうした患者さんからの信頼と期待に、しっかりとお応えしたい」「安心して医療を受けていただきたい」それが、当院の全職員共通の思いです。そして何より、職員一人ひとりが、医療に携わる者として、より高い倫理観を持って行動し、皆様からの信頼を裏切ることがないように、これまで以上に、日々研鑽を重ねてまいります。

医療の充実としては、今年1月、県内で3番目となる「総合周産期母子医療センター」の指定を受けました。出産前後に高度な医療が必要となった妊婦さんや新生児を受け入れる施設として、妊婦さんのための集中治療室(MFICU)などを整え、受け入れ態勢を強化しているところです。

また、2月から中央診療棟の新築に向けた工事が始まります。皆さまにはご不便をおかけしますが、より一層、機能的で快適な受診環境を整えてまいりますので、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

がん治療は「入院」から「通院」の時代へ 普段どおりの生活を続けながら治療を



腫瘍内科 科長
たきぐち ゆういち
滝口 裕一

がんと告知されたら、長期入院で今まで通りには暮らせなくなる…
多くの人は、そんなイメージを持っているのでは？
しかし、現在がん治療を受ける75%の人は通院でがん治療をされています。
当院は、「外来がん化学療法」に積極的に取り組み、
患者さんがこれまでの生活を続けながら治療に取り組めるようにサポートしています。

通院でも治療できるから 心理的負担が軽減

当院では、2016年10月から、腫瘍内科を新たに設置し、さまざまな悪性腫瘍(がん)に対して、薬物療法や手術療法、放射線療法などを組み合わせた治療を行っています。従来の臓器別診療のはざまにあるような疾患、原発不明がん、性腺外胚細胞腫、各臓器の肉腫なども担当します。

当院は、高難度の薬物療法を外来で行う環境が整っているため、近年は通院でがん治療する患者さんがとても増えています。仕事や家族との時間も確保しながら治療できるので、患者さんのストレスも軽減され、前向きな気持ちで過ごすことができます。

いついかなる状況にも 対応できる診療体制づくり

50ベッドが並ぶ通院治療室。その数は全国の国立大学病院の中でトップクラスです。医師1名、看護スタッフ10名、薬剤師5～6名が常駐し、各スタッフが、安全に治療を行うためのマニュアルをもとに、どんな事態にも対応できるように万全の体制で患者さんのケアにあたっています。

多岐にわたる専門外来を持つ当院では、糖尿病や心臓病といった合併症を抱える患者さんであっても、診療科同士で情報を共有し、連携して治療にあたります。患者さんを中心とした、トータルな診療が可能な体制が整っています。

設備の面では、人の手のような動きをする抗がん剤調剤ロボットを導入。より精密に安全な調剤ができます。

大学病院である当院は、新しい治療法の研究にも力を入れており、治療を希望される患者さんが他院からいらっしやることもあります。

原発不明がんや希少がんなども積極的に治療を行っています。



気分が優れないとき
気になることがあるときは
どうぞ遠慮なく
ご相談くださいね!

通院治療室のすぐ隣にある腫瘍内科外来とは常に連携を取りながら診療にあたっています。

外来がん化学療法の流れ

通院治療にかかる時間は、治療の内容によって異なります。



ニュース & トピックス

NEWS & TOPICS

映画「3月のライオン」 当院の特別室で撮影

若きプロ棋士の成長物語を描いた大人気コミックス「3月のライオン」が神木隆之介さん主演で実写映画化され、当院ひがし棟10階の特別室で撮影を行いました。映画は2部作で前編3月18日(土)、後編4月22日(土)から全国ロードショー予定です。



当日は佐々木蔵之介さんが撮影に訪れました。

4頭のワンちゃんが クリーンルームへ 遊びにきました

小児病棟では毎月、日本動物病院協会のご協力でアニマルセラピーを開催しています。今回はクリスマス衣装で登場。子どもたちはすぐに打ち解けて、膝に乗せたり、「おすわり」のご褒美におやつをあげたり、病棟をお散歩したりと楽しい時間を過ごしました。



こころからだを癒すために訓練されたワンちゃんです

リハビリを楽しく! にし棟11階にイラストが 描かれました

入院中の患者さんが少しでも楽しくリハビリができるようにと、当院公式キャラクターの生みの親である画家の伊藤香奈さんがお散歩コースをコンセプトに、キャラクターや草木花を描きました。20mほどのコースが3つあり、草木花には前向きな思いが込められています。



キンカン=大願成就、花菖蒲=あなたを信じる

世界的な自動車デザイナー 原田則彦氏が 病院救急車をデザイン!

当院では災害時のDMAT派遣や他院への患者さん搬送などに使われる病院救急車を導入しました。赤色を大胆に車体中央部に配し、銀色のラインが鋭く輝く独特のデザインが目を引きまします。「医療者たちの力強さやスピード感を表現しました」と原田氏。



今回は特別にご厚意でデザインしていただきました。(写真右:原田則彦氏)



通院治療中の患者さんに聞きました!



Aさん(60代・男性)

通院治療を開始して約2年です。病院滞在中は、テレビやスマホを楽しみながら過ごしています。薬によっては、吐き気や脱毛などの症状がありましたが、今はほとんどありません。先生や看護師さんからは、がんに関するアドバイスを数多くいただき、助かっています。

可能であれば、仕事を続けながら通院で治療することをオススメします。

Bさん(60代・女性)

約3年前に3か月間、外来化学療法を受け、今は経過観察で通院しています。通院治療中は、ベッドに横になってテレビを見ながら過ごしていました。入院してしまうと気が滅入ってしまいますが、通院治療は自分の時間を過ごすことができストレス軽減につながり、前向きに治療に取り組みます。

医療用ウィッグ

医療用ウィッグは、抗がん剤による副作用で脱毛してしまった患者さんが、治療前と同じように日常生活を送る手助けとなるアイテムのひとつです。

保険適用外のため、全額自己負担になりますが、自治体や生命保険会社で購入費の助成をしているところもあります。

外来診療棟1階のローソンホスピタルストリート店内にある相談窓口で各メーカーのアドバイザーによる相談会を定期的に開催しています。

ご興味のある方は、ぜひご参加ください。



豊富なデザインの中から患者さんにぴったりのウィッグをご提案します!



専門看護師・認定看護師による「がん看護専門外来」

がんについて専門知識をもった看護師が、がん患者さんやそのご家族の抱える心配事や不安に思っていることのご相談を受け、一緒に解決する方法を考えるのが、がん看護専門外来です。

がん治療は長く、病気のことや生活のことなど様々なお悩みをお持ちの方がいらっしゃいます。そうした患者さんひとり一人のライフスタイルやお考えを尊重しつつ、安心して治療に取り組めるようにお手伝いいたします。

受診を希望される方は、主治医または看護師にご相談ください。

【対象となる方】がん患者さんご家族

【相談できること】病気に関する心配事、治療中の生活の工夫(ウィッグ、メイクを含む)、職場復帰に向けての相談など



抗がん剤治療による副作用(皮膚炎や色素沈着、脱毛など)のお悩み相談も承ります!

がん市民公開講座やサロンを開催しています(参加無料・予約不要)

当院では、最新のがん治療やがん患者さんの体験談などを共有できる「がん市民公開講座」を毎年開催しています。また、がん患者さんやご家族がお互いに病気や治療中の生活について話をして助け合う「がんおしゃべりサロン」は月1回開催しています。



興味のある方は、ぜひご参加ください。詳しくは当院の「がん情報サイト」ホームページをご覧ください。

「がん情報サイト」



<http://www.ho.chiba-u.ac.jp/gan/>

患者さんのための

Q&A

呼吸の音が「ゼーゼー」して息苦しい…これってぜんそく?

はい、ぜんそくの可能性があります。ぜんそくは、ゼーゼーヒューヒューと笛が鳴るような呼吸音が特徴で、夜中や明け方に症状が強くなることが多く、日中は症状がない場合もあります。

最近の研究でわかったこと

ぜんそく患者さんの気道には、常に炎症が起こっていて、少しの刺激でも気道が収縮して息苦しくなることが最近の研究でわかりました。

ぜんそくになりやすい人は、健康な人よりも気道に存在する「炎症を起こす細胞」が多く、ダニやハウスダストなどのアレルギー原因物質が少量体内に入るだけで、その細胞を刺激し、気道に炎症が起きて、ぜんそく症状が引き起こされてしまいます。

治療せずに炎症を放置すると…

長い間未治療のまま炎症を放置すると、次第に気道の組織がこわれてしまい、健康な状態に戻すのが難しくなってしまいます。ぜんそくかな?と思ったら、きちんと病院で検査と治療を受けましょう。

千葉大学が新しい治療法を開発中

昨年9月、千葉大学医学研究院の中山俊恵教授(免疫学)のチームは、ぜんそくなど重いアレルギー疾患の発症の鍵となるたんぱく質を世界で初めて発見し、発症の仕組みを解明しました。根本的な治療に期待が高まる中、実用化に向けて企業との共同研究を進めているところです。



アレルギー・膠原病内科
なかしま ひろし
科長 中島 裕史

県内唯一の認定施設で、国内有数の症例数 心臓移植を待つ人の頼れる存在に

心臓の働きをサポートする「補助人工心臓」。ポンプを体の外に置く「体外設置型」と、体の中に入れる「体内植込型」があります。当院が先進的に取り組む体内植込型についてご紹介します。

心臓移植を待つ数年間を入院せずに過ごせるように

補助人工心臓とは、血液を全身に十分に送ることができなくなった心臓を補助する装置で、2タイプあります。

「体外設置型」は小型冷蔵庫サイズで、患者さんが常にその装置とつながった状態となり、入院が必要です。一方、「体内植込型」は、親指大のコンパクトな装置で、患者さんの体内に植込み後、生活指導などのプログラムを終了すると、ご自宅でお過ごしいただけます。

ただ、装着を許可されている患者さんは限られます。日本では、「重い心不全を患い、心臓移植が必要と判定された患者さんのみ」許可されている治療です(2010年～)。

心臓移植の待機期間は3年を超えるといわれており、患者さんにとって自宅で待つか、病院で待つかは、大

きな違いになるでしょう。「病院で大きな装置をつけたまま過ごしていたので、楽になりました」「家で生活できるので、手術してよかった」など、患者さんからも好評です。

欧米並みに対象患者を広げるため、当院で治験を行っています

当院は千葉県で唯一、「体内植込型」の実施施設に認定されており、(2012年～)これまでに21例の手術を行っています。これは国内でも有数の症例数です。そのうちの17人は退院し、月1回の通院以外は、買い物などの外出や軽いスポーツを楽しむなど、普通の生活を送りながら心臓移植を待っています(1人はすでに移植を終えました)。

治療には、医師だけではなく、看護師・臨床工学技士などの専門職が力を合わせています。他の診療科との連携も不可欠ですので、院内に多くの診療科を持つ



心臓血管外科
科長
まつみや ころろ
松宮 護郎

1986年に大阪大学医学部卒業。2009年10月より現職。趣味はゴルフ。広島市出身の広島カープファンで「2016年シーズンは熱狂しました」。

千葉大学病院ならではの総合力が発揮されています。

なお、欧米では心臓移植の待機患者に限らず、心臓が弱い患者さんにも体内植込型を装着し、「デステーションセラピー」といわれる永久の植込み治療が年間1000例以上行われています。

日本でも、生活の質(QOL)向上につながる体内植込型をもっと欧米並みに活用できるよう、現在、当院をはじめ全国7施設で治験を行っているところです。

重症の心不全の患者さんを助ける 補助人工心臓



「体外設置型」の補助人工心臓

人工心臓を体の外に装着し、患者さんの体と太い管でつながります。バッテリーを使用することにより、1時間程度の院内散歩ができますが、装着したまま退院することはできないため、入院を余儀なくされます。体内植込型に比べ、体外設置型は体外に出す管の太さが太く、傷口が大きくなるため、感染症のリスクが体内植込型よりも高く、入院して看護師によるケアが必要です。

「体内植込型」の補助人工心臓

直径2.5cmほどの小さな人工心臓を患者さんの体内に植込み、駆動させるための小型バッテリーと患者さんの身体を細い管でつながります。在宅で過ごせますが、感染症を予防するためにお腹から出る管を消毒したり、バッテリーのメンテナンスを行う必要があります。



私のオトシ のフイ

バドミントンでリフレッシュ!



東京オリンピックは会場で観戦したい!

歯科衛生士
たき
滝 あかねさん

私は口腔ケア外来を中心に、口腔治療や合併症予防などのサポートをしています。処置した患者さんが、その後、元気そうな笑顔を見せてくださるとうれしく、励みになります。

ゼロから始めたバドミントンは、仲間にも恵まれ、かれこれ10年ほど続けています。昨年はオリンピックのバドミントンをテレビの前で観ていて、金メダルを獲得した瞬間は大興奮でした。東京オリンピックの際はぜひ会場で試合を観戦してみたいです。

もっとうまくやりたい、できるようになりたいと思えるものに大人になってから出会えたことは思いがけない喜びで、この貴重な出会いを大切に、けがに気を付けて長く続けていけたらいいなと思っています。

働く 現場日記

一つひとつの時間に集中できるように 病院長をサポートしています

病院長秘書室 加藤 綾子さん

病院長の一日は、手洗いをしっかり行うところから始まります。会議や来客、電話も多く、テーマもさまざまです。眼科の科長としてカンファレンスや外来診療、手術も行い、国立大学附属病院長会議の常置委員長も務めています。

秘書の業務は、スケジュール調整と管理、電話の取り次ぎなどですが、優先順位をつけることに苦心しています。うまくスケジュール調整ができたときは、病院長も一つひとつの時間に集中し、スムーズに仕事をされているのがわかり、うれしいですね。

患者さんと接することはほとんどありませんが、病院運営に奮闘されている病院長を日々支え、院内外の方々の橋渡し役をしっかりと務めることで、患者さんに信頼される病院づくりに少しでも貢献できればと思っています。

院長がスムーズに仕事をされていると
うれしいです。



あとがき

新年明けましておめでとうございます。酉年は発展的なことが新たに始まる転換期になる、と言われていくようです。ニワトリが夜明けを告げる動物であることと関係しているのかも知れません。当院でも、2月、外来診療棟隣の「いのなテラス」内にレストラン「キッチンPinako」のオープンを予定しています。木目を基調とした癒しの空間を提供することで、患者さんにとって「第2の待合室」となることが期待されています。完成した暁には、ぜひご利用ください。

『いのなハーモニー』48号 発行日 2017年1月17日
発行 千葉大学医学部附属病院
〒260-8677 千葉県千葉市中央区玄鼻1-8-1
TEL 043-222-7171(代表) http://www.ho.chiba-u.ac.jp/
※ホームページでバックナンバーをご覧いただけます